KAWASAKI STEEL GIHO Vol.20 (1988) No.2

Integrated Data Analysis System

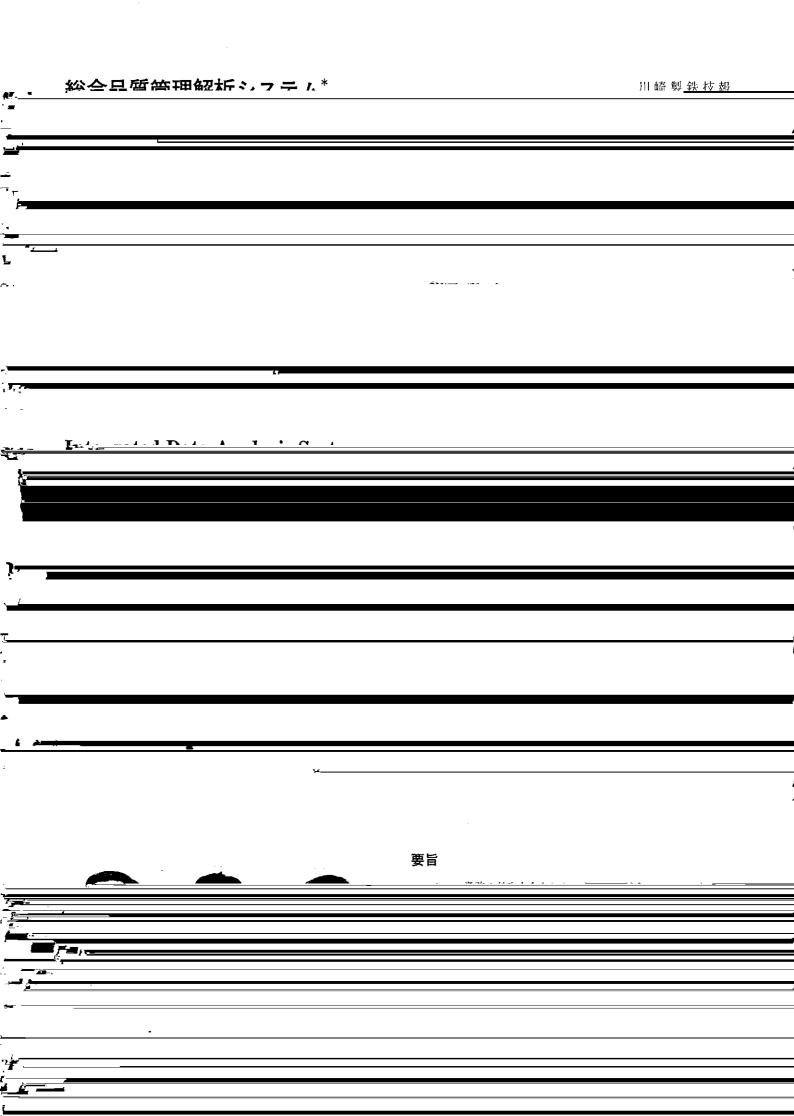
(Seizo Tanaka)	(Tohru Ariki)	(Mitohiko Igata)
(Susumu Yamasaki)	(Izumi Takahashi)	(Tameyuki Sekio)

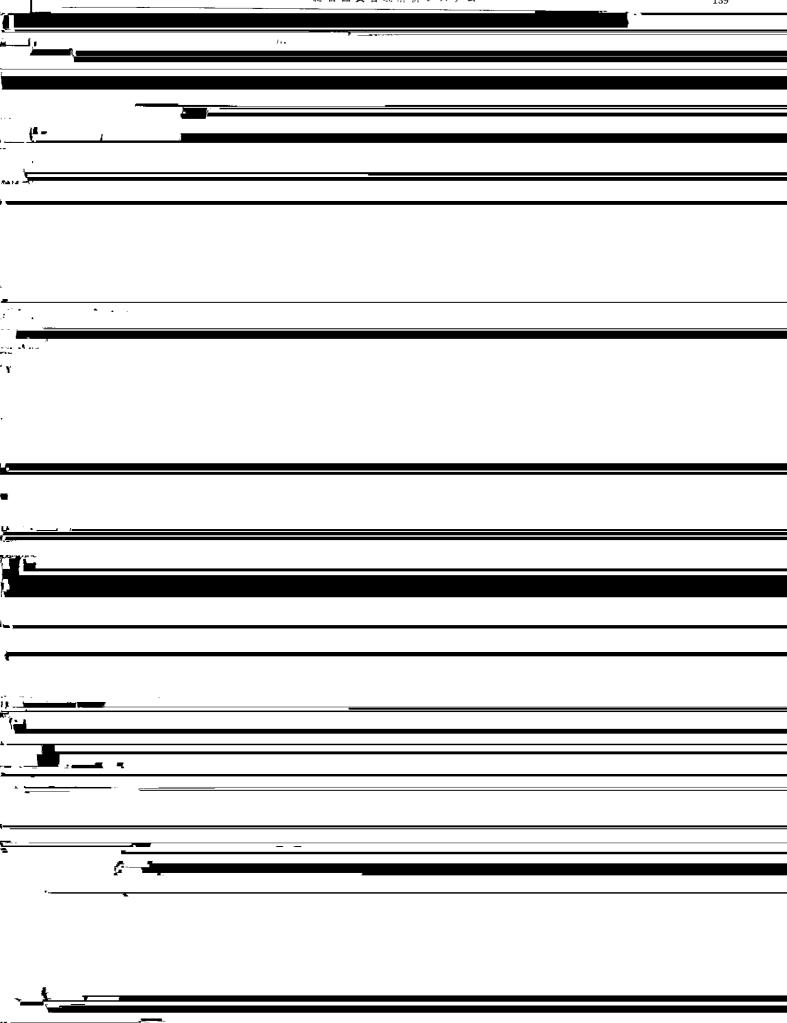
:

4

Synopsis:

For the purpose of expansion of data analysis activities, a system for the total management and analysis has been developed for application to daily staff work. This system contributes not only to improvement in efficiency but also to encouragement in displaying creativity in various kinds of staff work. The system is intended to be highly efficient and useful by providing a large amount of date storage in the number of items and volumes collected in offices and production lines, sophisticated software easily accessible by a number of personnel at terminals, and activities for supporting the computer utilization in routine and provisional jobs of the terminal users. The system k





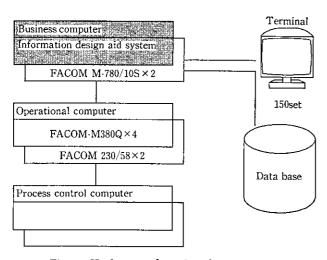


Fig. 2 Hardware configuration of IDEA system

タを活用し、各種データの収集・整理・加工業務を効率的に遂行で

3-8 <u>. マ白身が 『いへがまし 『然</u>

- (4) また、「欲しい形」へデータを加工することが「容易に」できるようにする。すなわち、各種統計解析処理のような高度な加工やグラフ処理、日本語処理のような視覚に訴える形の出力も容易にできる必要がある。
- (5) 最後に、スタッフの DIY 推進を円滑に進めるための組織体制と教育の整備・充実が必要である。

3.1.3 システムの構成

IDEA システムを、前述の考え方にしたがい、3つのサブシステムで構成することにした。

- (1) 管理解析データベース構築サプシステム
- (2) 解析支援サブシステム
- (3) 運用支援サプシステム

IDEA システムの構成を Fig. 3 に示す。以下,各サプシステムの機能と特徴, システムの運用と教育体制および効果について述べる。

3.2 管理解析データベース構築サブシステム

管理解析データペース構築サブシステムは、工場の生産ラインか 5.00年1 たデータか、プロセスコンピュータギトバナンラインコン

しい情報を」、「欲しい形で」、「容易に」入手できることを目標とし

3.1.2 システム構築の考え方

た。

キストレかわらった つもり

前述のねらいを達成するための、システム構築の考え方とその実 理毛段を1/1万に元上 ピュータを経由して管理解析データベースへ蓄積するサブシステム である。

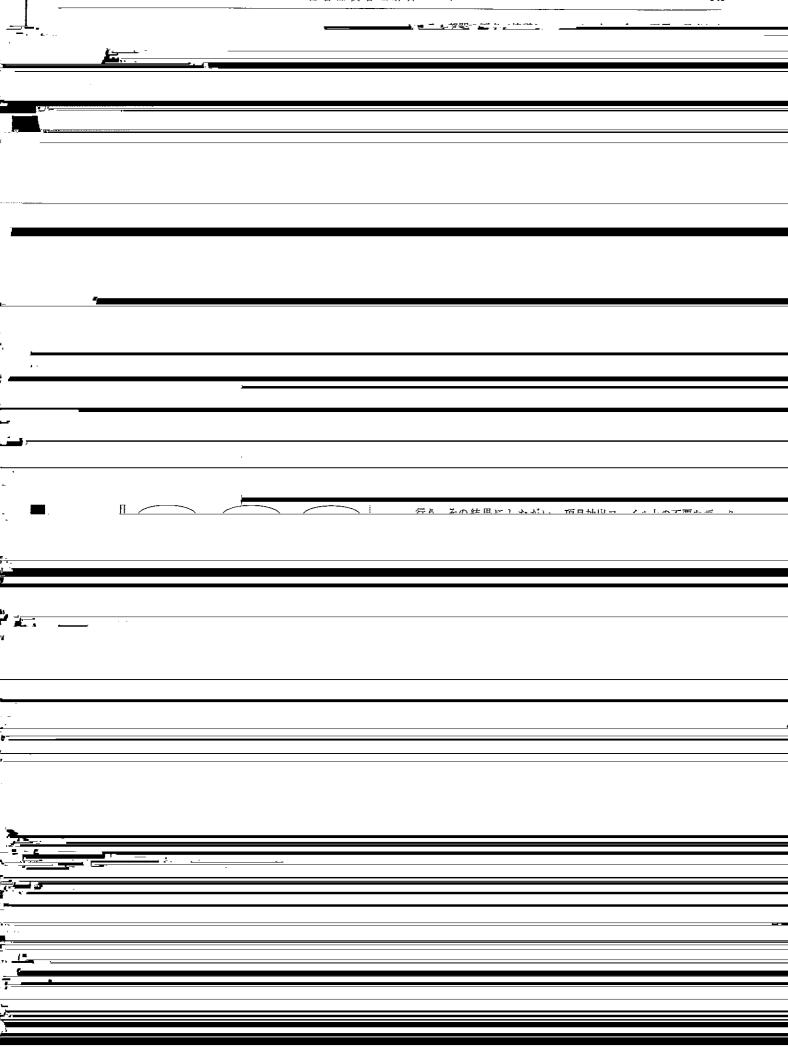
3.2.1 大容量データハンドリングの仕組

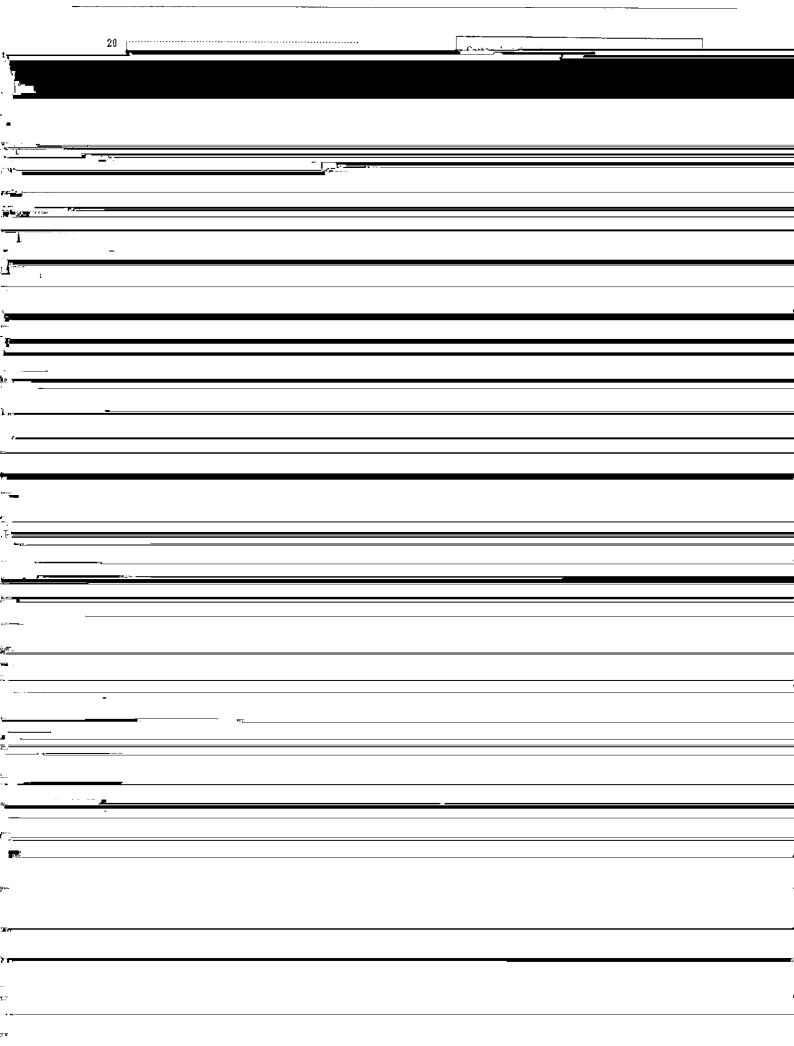
管理解析データベースの概念図を Fig. 4 に示す。生産管理システムで加集した 0 万姓の前口分データン 毎日 早間に井データ

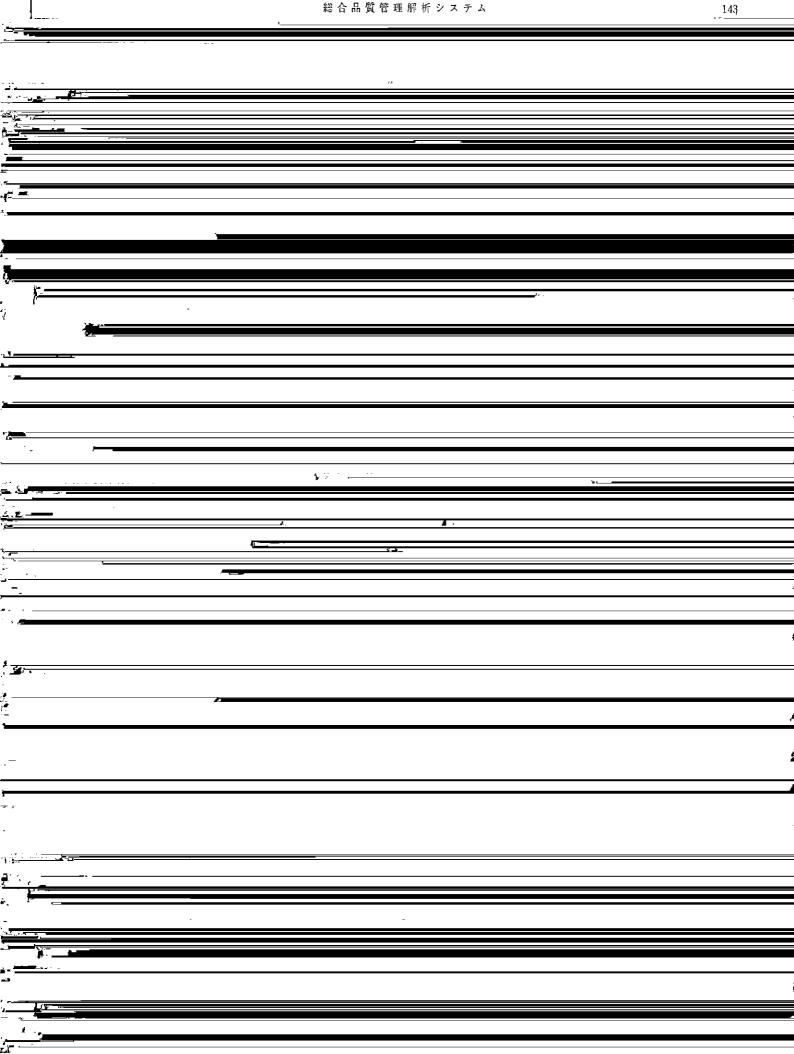
- (1) 今日のように技術進歩が激しい時代では、スタッフの業務遂 行に必要なデータが日々変化していく。したがって、加工した 情報は陳腐化する可能性があり、もととなるデータの蓄積・公 開が必須である。それと同時に、公開用データを収集・蓄積す るシステムの変更が容易にできることが必要である。
- (2) スタッフが、公開用データを必要な時に、容易に検索できる 必要がある。そのためには、データを資源として整理しデー

ファイルへ追加・更新する。同時に、使用頻度の高いデータを項目 抽出ファイルへ追加・更新する。さらに検索効率向上のために、特 定の目的のために加工したデータを長期的に保管しておく集約ファ イル、一時的に保管しておくパーソナルファイルを用意した。ま た、臨時的に発生するデータを自ら登録し、保管・解析するための スポットファイルも用意している。

生データファイルは、平均6箇月間データを蓄積している。6箇







1547 E-2-